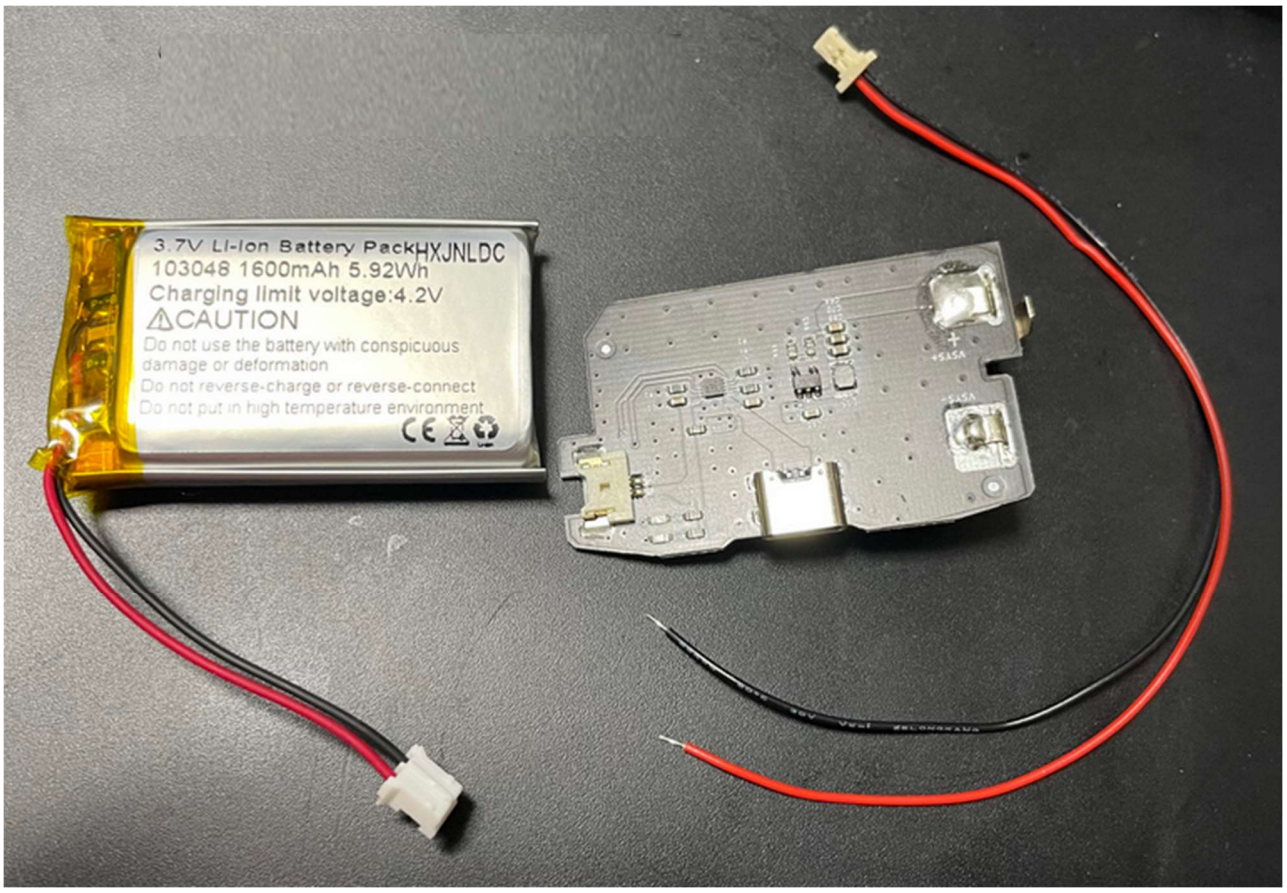
GBA

充電モジュールキット

取付マニュアル

・まずは付属品,その他必要なものを確認しましょう。



■付属品■

チェック	名称	説明
□	メイン基板	画像右中、黒の基板です。
□	コネクタケーブル	画像右側、コネクタケーブルです。 ※一般的なケーブルと配線が逆になっており、 本説明書の指示を良く読んで取り付けください。

■その他、キット以外に必要なものは以下の通りです■

チェック	名称	説明
□	GBA 本体	普通の GBA です。
□	充電バッテリー	画像左、1500~1600mAh 4.2V 出力バッテリーです。 103048(10cm x 30cm x48.5cm)のサイズとなります。
□	熱収縮チューブ	直径 1.5mm ぐらいの熱収縮チューブを ご利用ください。
□	はんだごて	（推奨）はんだごてです。必須ではないですが推奨。
□	ドライヤー	市販品のヘアドライヤーです。熱収縮チューブ用。 ヒートガンがあればそちらの方が良いです。
□	ニッパー	ケーブルの切断に使います。
□	ペンチ	本体の加工に使います。
□	キリ(or ドリル)	(Option)本体の加工に使います。
□	丸ヤスリなど	(Option)本体の加工に使います。

準備はできましたか？

それでは、組み立てを

始めましょう！

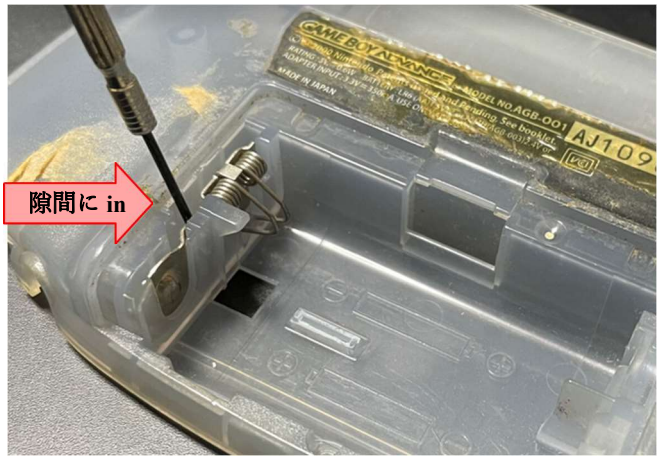
STEP1　GBA 本体の加工

充電モジュールを収めるために、本体の加工を行います。
ドライバー等での分解は不要です。
また、一部互換シェルの場合は加工不要の場合があります。

まずは、電池 BOX 内の出っ張りをペンチ等で切断します。
※互換シェルには出っ張りがなく、切断不要でした

参考：互換シェルの場合

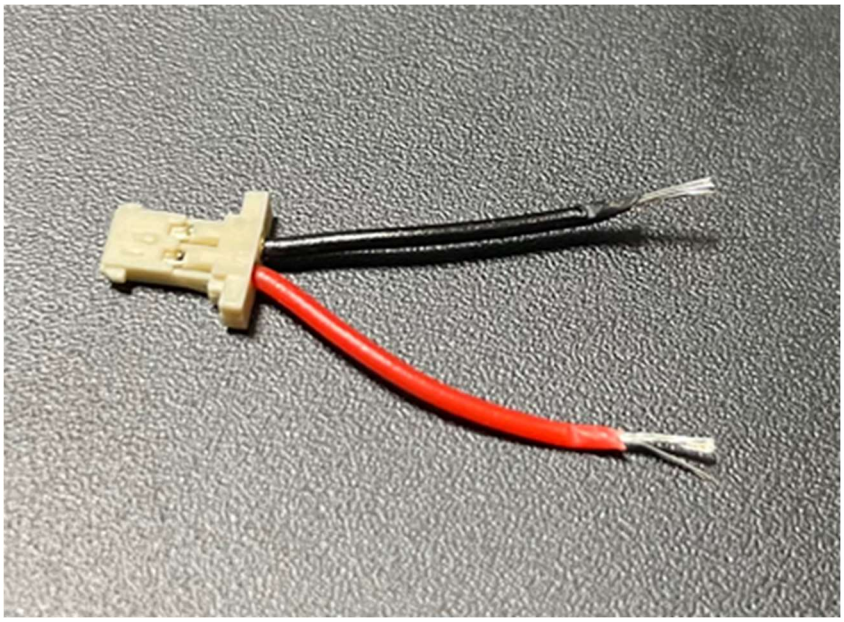
次に、電池 BOX 内左側の金具を取り外します。取り外しにくいですので
真ん中にマイナスドライバーを差し込みつつ、
引っかかっているピンを押し込みながら上に金具を持ち上げてください。
（最悪プラスチックを割ってしまっても、充電モジュールの組み込みには
影響がないので、勢いよくやりましょう）



STEP2 コネクタとバッテリーの接続

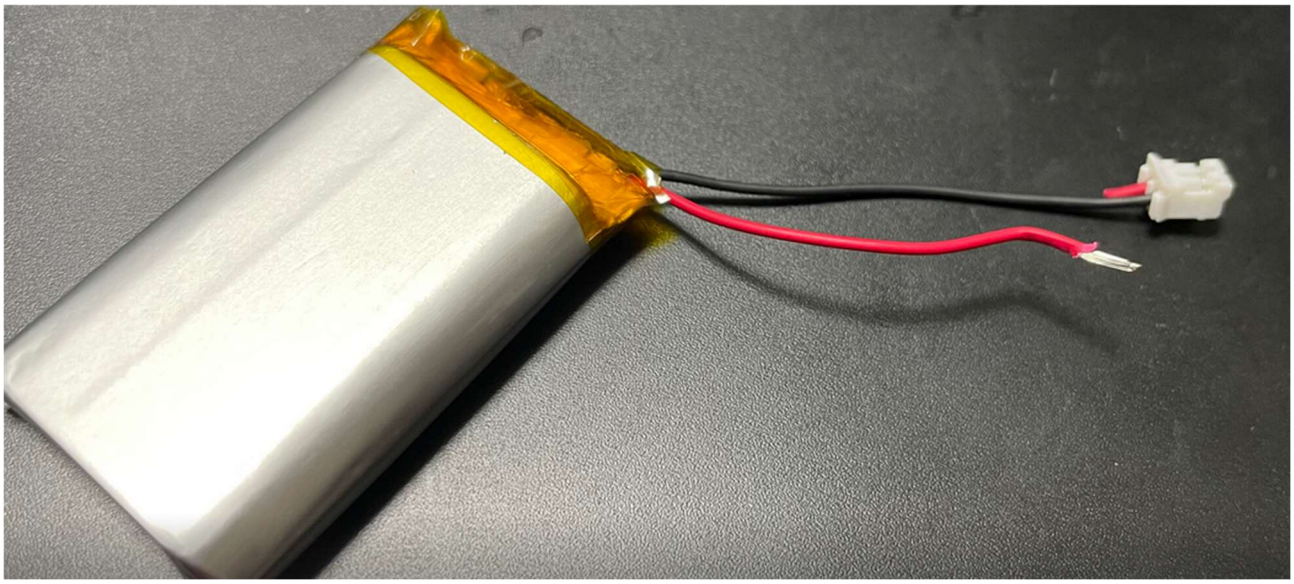
キットに付属していたコネクタを短く切断します。
被覆を剥いて芯線を最低 5mm 程度は出しておきます。
(不安な方は 1cm ぐらいでも可)

※線の長さは、長すぎると収納に邪魔ですが、短すぎるとこの後の作業でミスをしたときに
　リカバリ不能になりますので、慣れてない方は写真よりやや長めの方が無難です

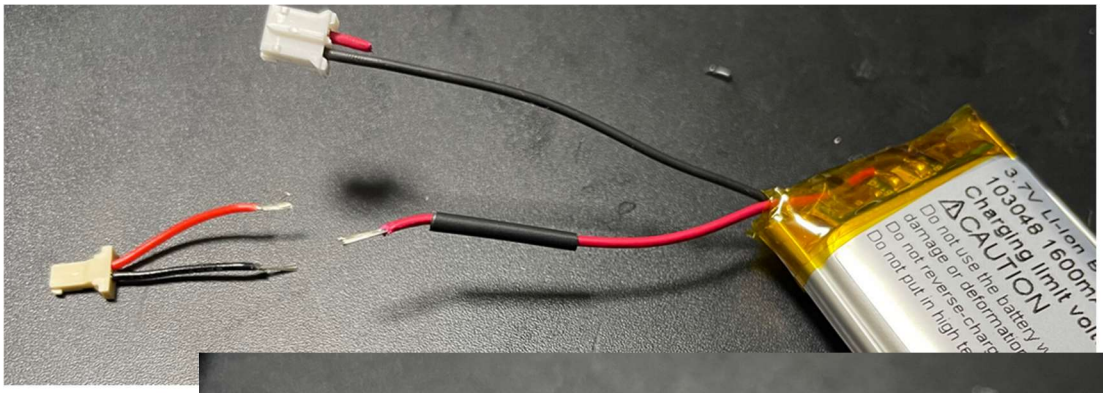


バッテリーの赤色（プラス側）を切断し、被覆を剥き
芯線を 5mm 以上出します。

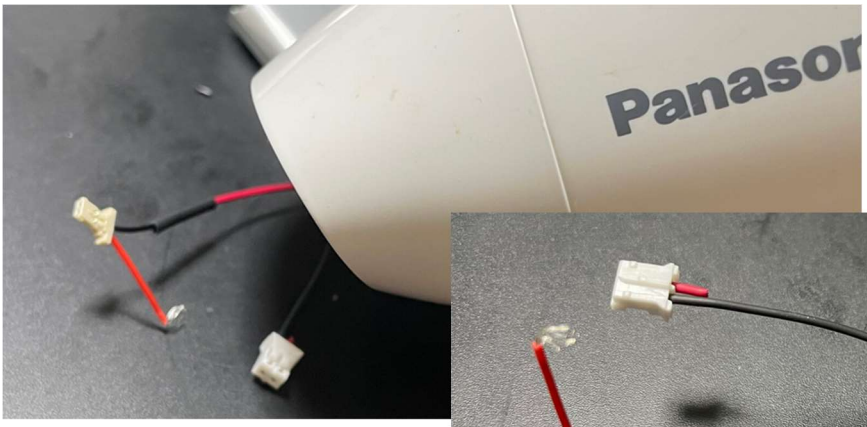
危険ですので、赤と黒の線を一気に切断しないでください。
ショートし発火、感電する可能性があります！

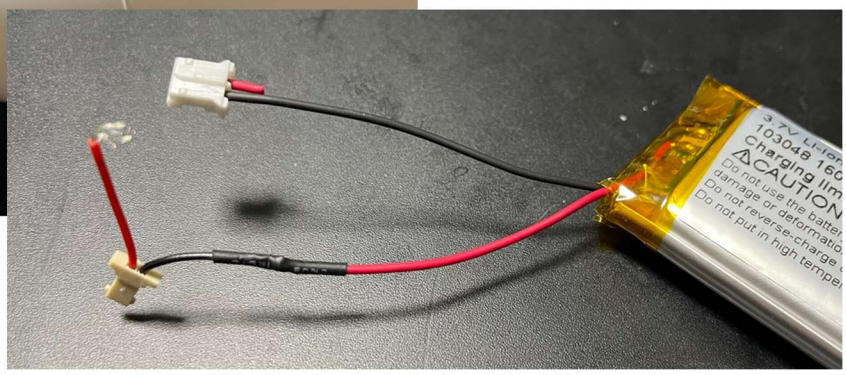


電池側の赤線に熱収縮チューブを通し、コネクタ側の**黒線**と接続します。
※赤線と黒線を接続します。コネクタが一般的な配線色と異なる作りのため
　あべこべに繋げているように見えますが、これが正しいです。
お互いの芯線を捩じるようにし、簡単に外れない程度に絡ませてください。
（捩じった箇所をはんだづけで固定する方が安心ですが、
　熱収縮チューブが通らなくなるのではんだ盛り過ぎに注意してください）

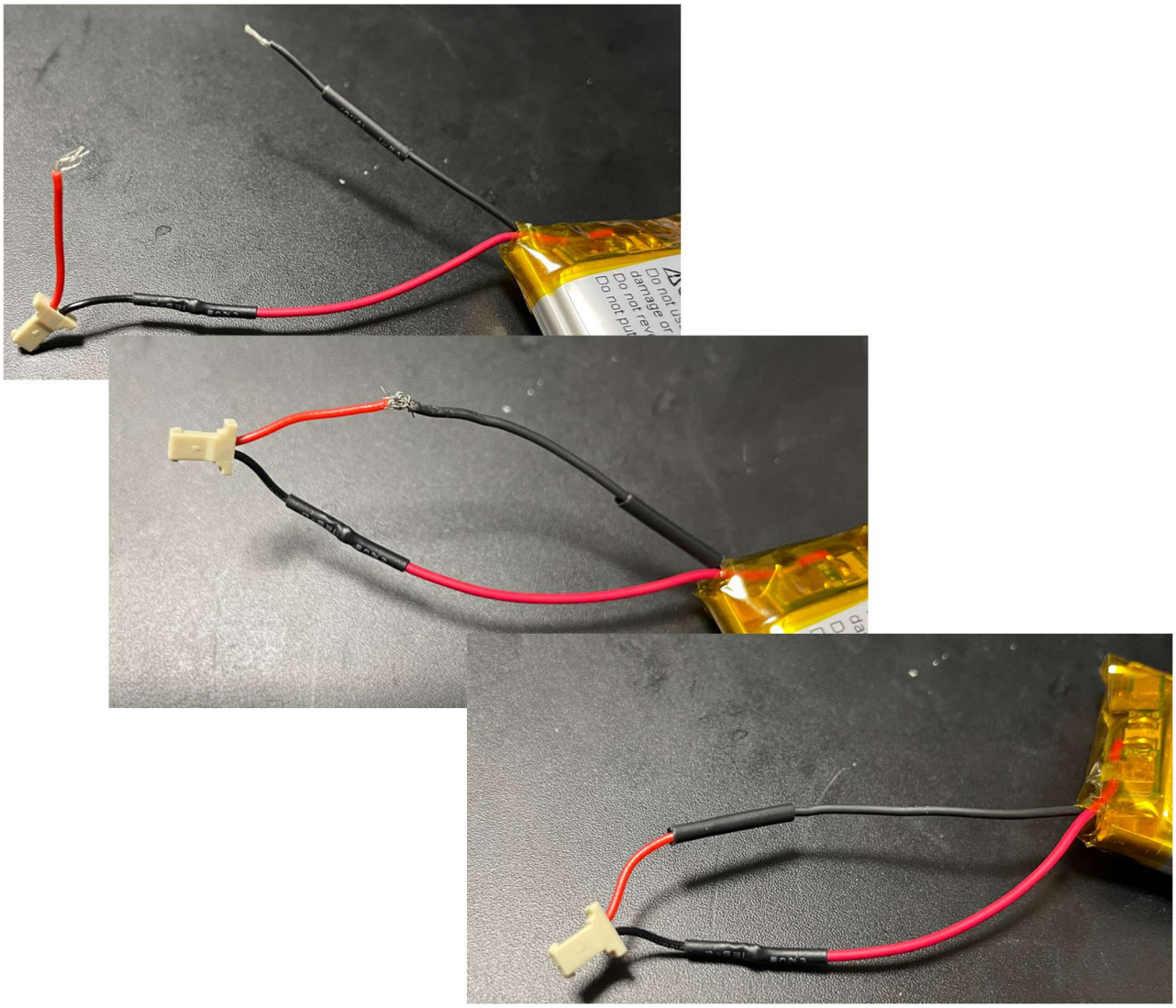


熱収縮チューブを芯線部分に被せ、ドライヤーの温風を当てます。
危ないので、バッテリー本体に熱風を直撃させないよう注意して下さい。
熱収縮チューブが収縮し、ケーブルがしっかり接着したことを確認します。

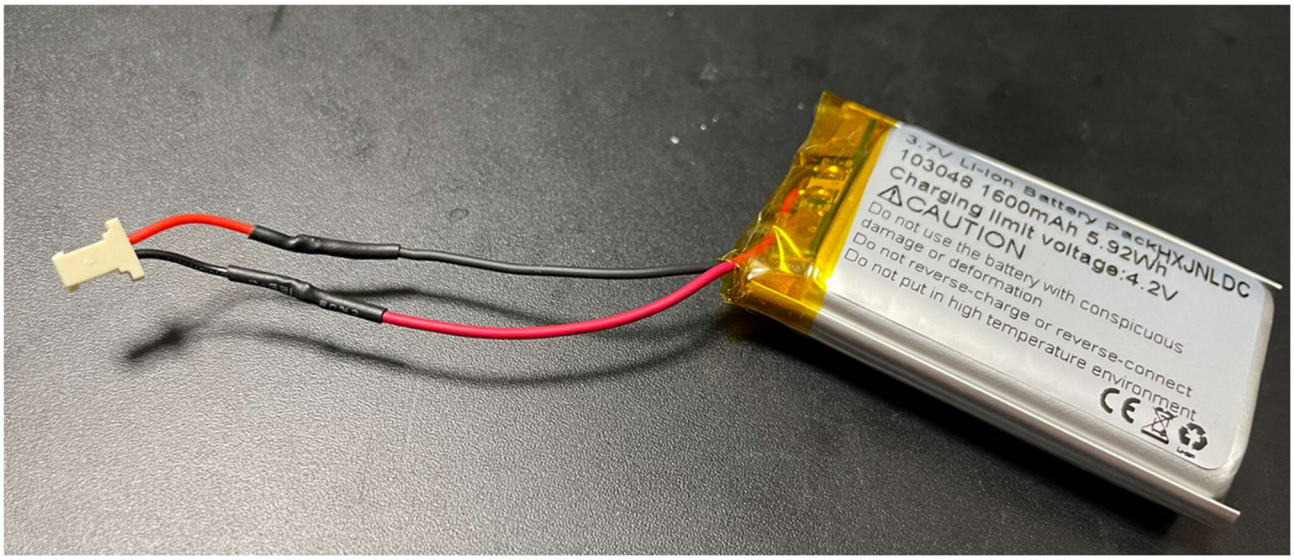




もう一方（バッテリー側黒マイナス線、コネクタ側赤線）についても
同様の手順で接続を行います。



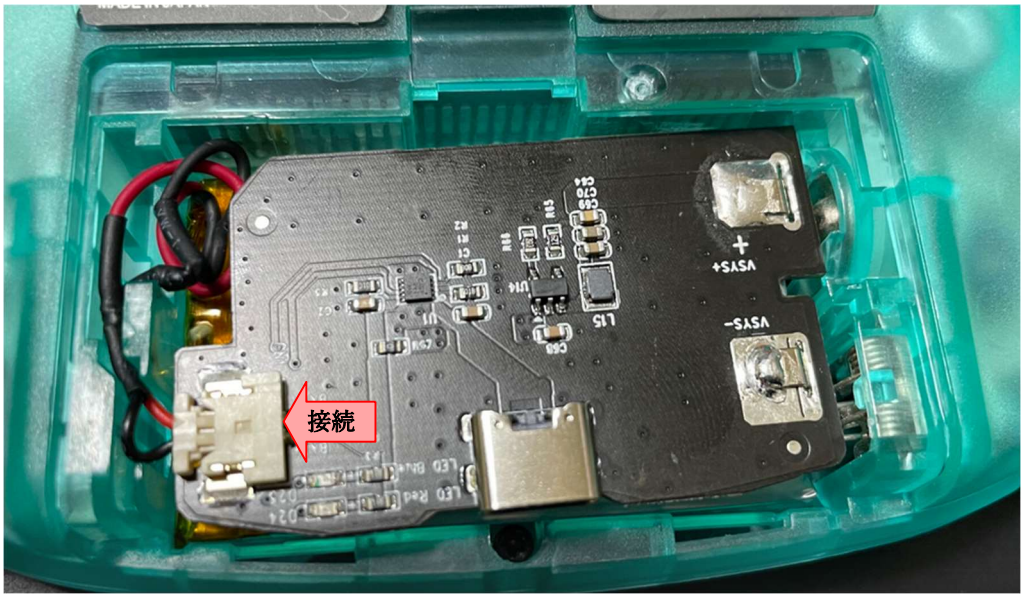
両方のケーブルが接続されたら、バッテリー加工は完了です。



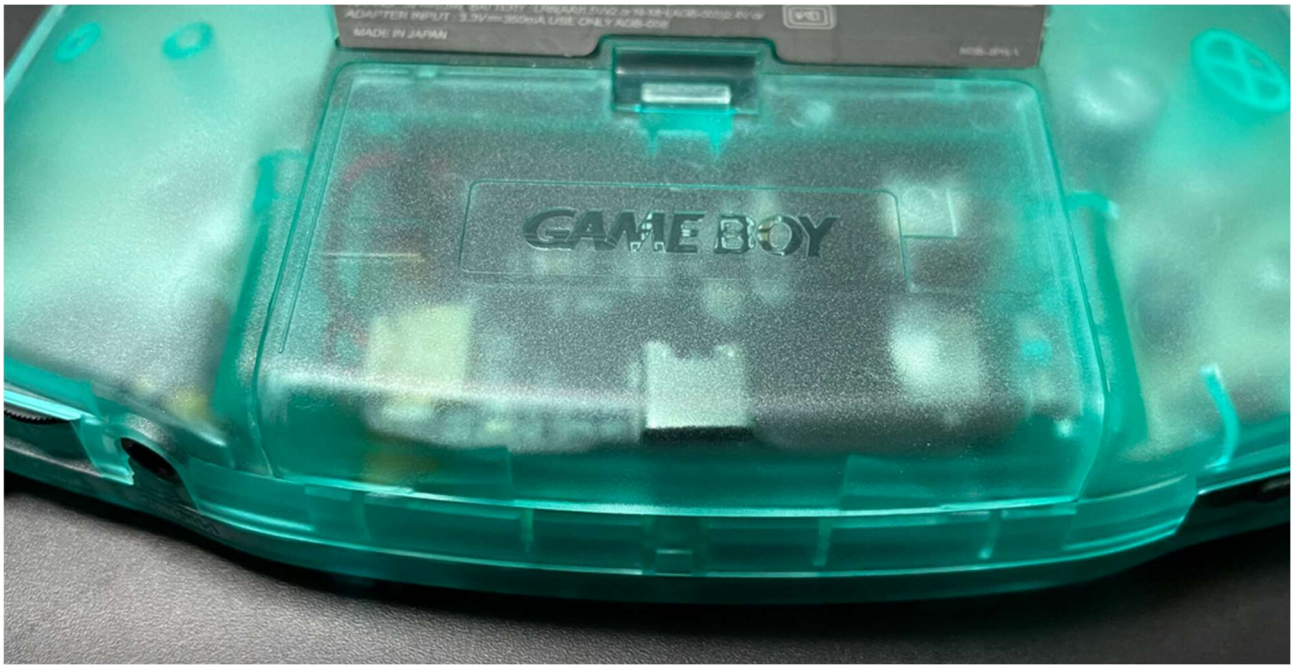
STEP3 GBA 本体への取り付け

バッテリーを GBA 本体の電池ボックスに収納します。
制御基板がある側（金色の絶縁シールが貼っている方）を
左の金具を取り外した側に向け、ケーブルは金具があった部分に
なるべく押し込んでおきます。

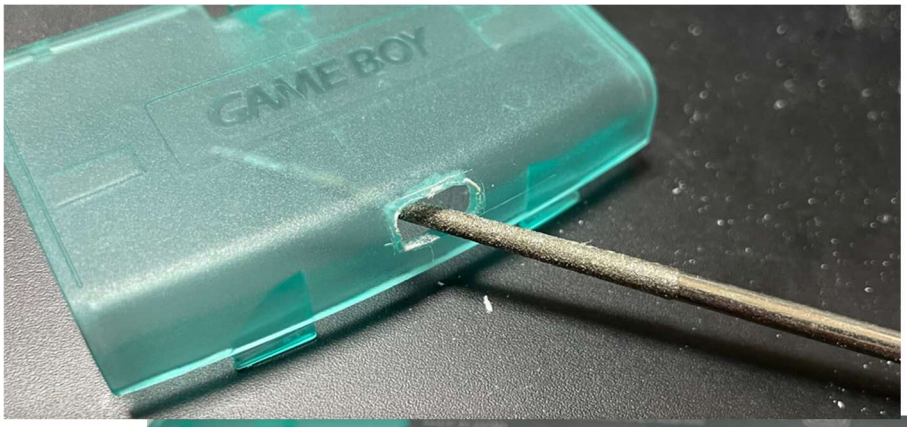
メイン基板とコネクタを接続し、右側の金具とバッテリーの隙間に
基板の金具をねじ込むように差し込みます。



蓋が閉じることを確認します。



バッテリー蓋にキリやヤスリ等を使って穴をあけておくと、
直接ケーブルが接続できるので便利に利用できます。



完成です！

★備考：充電できない場合

本製品は、出力電圧が 5V 以外に対応した USB TypeC 形状の充電器
（いわゆる、USB PD 規格に対応した充電器）では充電ができません。
一般的な USB2.0 形状の口を持つ充電器に、USB2.0-TypeC 変換ケーブルで
接続するなど、5V でしか給電されない環境であれば正しく充電されます。